琉球・沖縄年中行事 なんでも？！Q&A

焼香客のお見送り

●Answer
沖縄市・コザ山球陽寺（きゅうようじ）前住職（ぜんじゅうしょく）
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 父の四十九日のとき、わざわざ遠方から友人が焼香に来てくれました。久しぶりの再会だったので、自宅向かいの駐車場で話していると、おばさんから「喪中の見送りは玄関先まで」と注意されました。四十九日は、外で友達と会話もできないのですか？（石垣市・Tさん・40代・女性）

A Tさん、貴重な体験をされましたね。おばさんのおっしゃる通り、沖縄では喪中、特に四十九日までの供養のしきたりがありますので、数例をご紹介させていただきます。

四十九日は『寝ずの番』

よく耳にするのは、「お通夜から四十九日まで、ヒラウコーの煙を絶やしてはいけない」という考え方です。これは、ヒラウコーやその煙が、故人様のシニマブイ（死魂）を乗せてグソーへ運んで成仏するという沖縄の民間祭祀の考え方によります。

その結果、昼夜を問わず、ヒラウコーが消えることのないよう、誰かが『寝ずの番』をして、もしくは交代しながら焼香を行うということになりますが、本来、ヒラウコーや抹香・線香を含むお香の類は、読んで字のごとく『香（こう・かおり）』が大切だといいます。

これは、自らの日常の生活の香りを慎み、お香の清浄なる香りに包まれて、尊い仏様や故人様のご仏前にお参りさせていただくという考え方に由来します。

『平日香（はんにちこう）』という言葉もあるように、一度、焼香すれば、約12時間はお香の香りが残り、ありがたい供養になりますので、夜に焼香したら、翌朝まではお香を絶やしていないということになります。

喪主や遺族の方々は、無理をして『寝ずの番』をしないよう、休まれるときはしっかり休んでいただきたいと思います。

四十九日は『三度の食事を欠かさない』

また、「お通夜から四十九日まで、朝・昼・晩のウジン（御膳）料理を絶やしてはいけない」という考え方もあります。これも、故人様に対して、ひもじい思いをさせてはいけないという沖縄の民間祭祀の考え方によります。

ウジン料理ですから、少なくとも毎食、ご飯（地域によっては『ウブク（御仏供）』という山盛りご飯）・ウシル（御汁）・ウサチ（酢の物類）などの一品料理を奇数器（きすううつわ）準備することが望ましいとされます。

現代は、仕事を持たれている方が多く、特に昼食のお供えやウサンデーは大変なことだと思います。このときは、同じく沖縄の民間祭祀のお供えとして、『ヒラウコー15本は、グソーの一食分』との考え方がありますので、夕食をお供えする前に、昼食分の代わりになる15本を焼香されてはいかがでしょうか。

沖縄のしきたりに詳しい方々も、こういった考え方をよく用いられています。いずれにも、喪主や遺族が無理をしないようにという思いやりや、沖縄の民間祭祀の応用の懐の深さを感じるところです。

喪中の見送りは玄関先まで

さて、『喪中の見送りは玄関先まで』も、喪中に関連する沖縄の民間祭祀の考え方によります。これは、

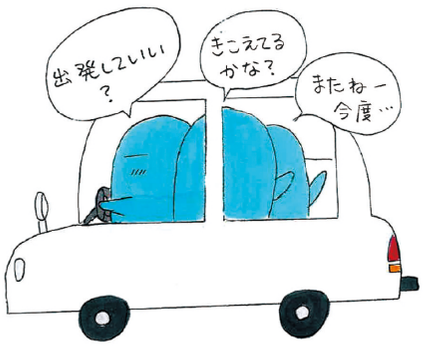
●トートーメーのある自宅にて、大切な故人様とともにナンカ（七日）をご供養し、外出して故人様を一人ぼっちにしないため

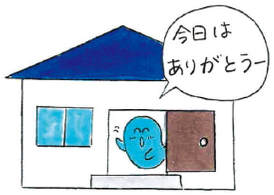
●焼香客の方々にご自分でロウソクから火をつけさせる失礼がないよう、喪家の方が側について火をつけてヒラウコーや線香をお渡しするため

●悲しみを自宅から持ち出さないため

などという考え方からです。これらはミーボン（新盆）やミージュールクニチー（新十六日祭）が、旧盆やジュールクニチーのときのように親戚回りを行わず、外出をお休みして自宅で故人様をご供養するという考え方と同じです。これが、自宅から出ないということで、お見送りは玄関先までになったのだといいます。

普段であればお見送りするのがマナーではありますが、このような喪中のときは、見送りの語源にもなっている、目送（めおく）り……「ありがとうございました。お気をつけて」と、玄関から感謝の気持ちでお友達のお帰りを見（目）届ける（送る）とよいかもしれませんね。





絵 帰依ひろ子

帰依　龍照（きえ　りゅうしょう）
1968年生まれ（51歳）、岡山県出身／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／コザ山球陽寺（京都創建：文応元＜1260＞年・沖縄移転：昭和36＜1961＞年）第18代住職／沖縄県宗教研究会・理事長／沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式（地鎮祭）を担当しつつ、行政・企業・学校における『琉球・沖縄のしきたり』に関する講演活動を行う。1人の娘と3人の息子の父親。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q＆A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。